

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	専門演習IV		
担当者(Instructors)	吉村 道孝	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

専門演習Ⅰ・Ⅱ学んだ内容と、Ⅲですすめてきた研究について、卒業論文として完成させていく。卒業論文や卒業レポートには、専門知識、論理展開、批評的見解、データ処理、プレゼンなど今後の人生で役立つあらゆるスキルが入っており、卒業論文の作成と同時にスキル習得を目的とする。そのため進捗に応じて対面とリモートの指導を使い分けて実施する。対面・リモートどちらでもパソコンを使用して作業をおこなう。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式でおこなう。自分自身でテーマを設定し、基本的に一人で卒業論文の作成に向かって課題をすすめる。講義中は随時、教員とコミュニケーションをとりながら課題をすすめる。定期的に各自の研究についてプレゼンテーションをおこなう。各自作業を進める場合もあり、進捗に応じて3回程度リモート授業を実施する予定である。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	研究進捗確認及び後期予定の確認	夏季休暇中の研究進捗及び卒業までの研究のプランの発表	<input type="checkbox"/>
第2回	調査・実験の実施1	各自のテーマに沿って、調査・実験をおこなう。データベース研究は解析をおこなう1	<input type="checkbox"/>
第3回	調査・実験の実施2	各自のテーマに沿って、調査・実験をおこなう。データベース研究は解析をおこなう2	<input type="checkbox"/>
第4回	データ処理をおこなう1	各自の研究内容に沿って、データを解析する1	<input type="checkbox"/>
第5回	データ処理をおこなう2	各自の研究内容に沿って、データを解析する2	<input type="checkbox"/>
第6回	卒業論文の執筆1 イン트로ダクションを書く	イントロダクションを執筆する。	<input type="checkbox"/>
第7回	卒業論文の執筆2 方法を書く	方法を執筆する。	<input type="checkbox"/>
第8回	卒業論文の執筆3 結果を書く	結果を執筆する。	<input type="checkbox"/>
第9回	卒業論文の執筆4 考察・参考を書く	考察・参考を執筆する。	<input type="checkbox"/>
第10回	プレゼン資料を作成する1	論文執筆と同時にパワーポイントでの発表資料を作成する1	<input type="checkbox"/>
第11回	プレゼン資料を作成する2	論文執筆と同時にパワーポイントでの発表資料を作成する2	<input type="checkbox"/>
第12回	演習内で発表をおこなう1	演習内で予演会をおこなう1	<input type="checkbox"/>
第13回	演習内で発表をおこなう2	演習内で予演会をおこなう2	<input type="checkbox"/>
第14回	演習内で発表をおこなう3	演習内で予演会をおこなう3	<input type="checkbox"/>
第15回	卒業研究発表会	学部全体での発表会で発表・聴講する	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

事前学習：自身で設定したテーマに関する論文を読む。また関連する領域の最新研究についても常にアップデートをおこなう。(2時間) 事後学習：講義で学んだ点や、指摘された点について自分の成果物である論文執筆を進める。(2時間)

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

一人ひとりの進捗やテーマに応じて、課題やタスクが毎回設定され、その振り返りをおこなう。プレゼンテーションや論文は適宜添削をおこない返却する。

■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)		
区分 (Division)	DP区分 (DP division)	内容 (DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	1. 常にゴールを意識し、遅延なく計画をマネジメントできる。2. データ分析やプレゼンテーションなど、理論的な展開と作業ができる。3. 人を対象とした研究指針や、個人情報保護法など、法令や規則を理解できる。

■成績評価 (Evaluation method)				
筆記試験 (Written exam)	実技試験 (Practical exam)	レポート試験 (Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他 (Other)
			60%	40%
授業内試験等 (具体的内容) (Specific contents) 演習科目であるので、グループワーク・ペアワークなどの取り組む姿勢を「その他」として評価とする。また、毎回振り返りや小レポートをおこない、理解力や達成度を「授業内試験」として評価する。				

■テキスト (Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	授業内容に応じて資料を配付する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書 (references books)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	授業内で適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		